

PILLAR×タンケンシールセーコウ 産業機器関連セグメントにおける起爆剤に

タンケンシールセーコウを
当社グループに迎えてから1年。
技術・営業・生産・調達の各部門における、
シナジー効果や効率化の手応えを
語り合った。



株式会社 PILLAR
取締役 専務執行役員
星川 郁生

株式会社タンケンシールセーコウ
理事 技術本部長
川角 陽介

株式会社タンケンシールセーコウ
取締役
島山 義彦

株式会社タンケンシールセーコウ
取締役 営業本部長
中川 通弘

メカニカルシールの^{しゅうどうざい}摺動材を自社生産する 稀有な存在に

星川 PILLARはタンケンシールセーコウ(以下、タンケン)の親会社となったものの、メカニカルシール分野における事業規模はほぼ同じです。それどころか、タンケンのソリューション提案に秀でたユーザー営業やメンテナンスサービスに関しては、同業者ながら見習うべき存在であると、一目を置いていました。ともにメカニカルシール事業を展開しているPILLARとタンケンは、お互い補完関係にある項目が多々あり、大きなシナジー効果が得られると思います。例えば、タンケンのカーボンとPILLARのSiC(シリコンカーバイド)の相互調達を行えば、メカニカルシールの主要な摺動材のグループ内製化が実現

できます。また、関西と関東に生産拠点を持つ体制となったことは、BCPの観点からも望ましいことです。

中川 常に競い合っている企業であったPILLARと経営統合すると聞いたときは、正直戸惑いがありました。しかし実際一緒になるとPILLARには多様な人財を受け入れる土壌があり、安心して体制の融合を進められています。互いの技術を出し合えば、メカニカルシールにおける一般的な摺動材の組み合わせとなる硬質材(SiC)と軟質材(カーボン)の両方を自前で生産できるという業界内でも稀有な存在になります。「かゆいところに手が届く」タンケンらしさを失うことなく、むしろこれまで以上に発揮して、顧客満足度の向上を図っていけると確信しています。

“違い”から学ぶ設計思想と生産現場

星川 この1年間は、各分野で両社の統合作業、シナジー効果の創出活動を通じた、いわば「地ならし」期間と考えています。違う環境で働いていた社員たちが同じ価値観を持ち、同じ目標に向かって行動するのは、たやすいことではありません。フィロソフィー(企業哲学)の浸透や教育を続けることはもちろん、人事・評価制度もブラッシュアップしていかなければいけないでしょう。1年を振り返っていかがでしたか。

川角 設計部門では、昨年10月から課長・係長クラスが3名ずつ出向しあって人事交流を実施してきました。例えば、メカニカルシールの設計要素について意見を交換すると、社風や設

計思想の違いが見えて新たな発見や気づきが得られます。またトラブル対応についても、ポンプ用メカニカルシールに強いPILLARと攪拌機用メカニカルシールに強いタンケンが、“セカンドオピニオン”的に補完しあえる可能性が見えてきました。中川 取り扱う製品が増えた営業部門でも、双方の営業本部が中心になってワーキンググループをつくり、互いの製品の知見を学ぶ勉強会を定期的に開催しています。グループすべての製品ラインナップにおいて、双方の営業担当がお客様からの問い合わせに、その場で即時受け答えできるような対応の早期実現を目指しています。

また、双方の営業拠点の統合を進めています。メールや電話での情報交換や照会と異なり、同じフロア内ですぐに確認し合える環境があるというのは大きいですね。違う文化を持った人の働き方を見ているだけで、「こんなやり方があるのか」という“気づき”が見えてくるのも学びになっています。島山 生産現場では、PILLARのスピード感に驚かされました。PILLARの工程管理手法を上手く取り入れながら業務を改善し、徐々に製造プロセスの高度化を展開しています。

生産シナジーとしては、PILLAR向けカーボンの生産体制構築に着手しており、工場の稼働率改善と量産化によるコストダウンを進めています。こうした取り組みによりPILLARグループの供給力強化の一翼となり、より安定的にお客様に製品をお届けできるよう努めています。

総合力アップによる新たな価値提案

星川 本当の意味での成果、シナジー効果を刈り取るのは今年からと考えています。当初、経営統合についてお客様から否定的な意見もあるのではないかと危惧していましたが、総合力アップに対する肯定的なご意見が大半を占めているように感じています。改めて、PILLARの立場でいうと、タンケンの技術力、素材、拠点、人財という大きな武器を得たことの意味を思い、シナジー効果による価値提案を生み出し、新たな100年に挑みたいと思います。

中川 市場環境は目まぐるしくかつ大きく変化する時代です。その変化に対応すべく、お客様も新たなチャレンジに取り組もうとされています。市場のニーズをいち早くキャッチし、他社に先んじて提案する仕組みを一緒につくっていききたいですね。

川角 グループ内で、SiC、カーボン、テフロンといった素材を持っていることはアドバンテージと考えており、既存製品の改良や新たなシール開発に活かしていきます。またシールにとらわれない新製品の開発にもチャレンジしたいです。

星川 単なる「いいとこ取り」ではなく、議論を重ねて互いの長所を掛け合わせることができれば、目からうろこが落ちるような新たな価値を社会に提供できると信じています。既に素晴らしいものが生まれつつあると感じています。

川角 PILLARの皆さんには柔軟にさまざまな意見を受け入

れるカルチャーがあります。だから、お互いの意見を率直にぶつけ合って、いいものをつくろう、いい設計をしようという気持ちになれるのではないのでしょうか。

仕事以外の場でも交流を深めています。例えば、関東圏のメンバーはフットサルやゴルフなどを通じて、すっかり同志として定着しているようです。

社会のニーズに応え続けるために

星川 PILLARは東証プライム市場に上場しています。タンケンは非上場企業でしたので独自の企業統治活動を行っていましたが、グループ化により今後はコーポレートガバナンスコードへの対応やTCFD開示などの気候変動対応といったPILLARグループの一員としての活動が求められます。例えば、CO₂の排出量は2023年度実績から算定を開始しました。リスク管理などについても、今年度から取り組みを始める計画です。

中川 タンケンの「安全連続操業のサポートサービス」という社是も、サステナビリティへの貢献を謳ったものと考えています。例えば、メカニカルシールの寿命延長や、修理による再使用は、エンドユーザーにおける機器の長期かつ安定運用に貢献しています。

川角 同じく「安全連続操業のサポートサービス」はタンケン最大のストロングポイントだと考えています。転換期を迎えているエネルギー市場においては、バイオマス発電や地熱発電といった新エネルギー産業向けのシール開発などにも挑み、時代とともに変化するニーズを捉えてシェア拡大を図っていききたいと考えています。

島山 まずは、PILLARのSiCとタンケンのカーボンを互いに調達し合うことで、グループとしての安定的な供給力の飛躍が目標です。また金属素材においては、各工場別の管理から一括管理できる体制を整えて、金属加工部品の競争力を高めたいと考えています。京浜、京葉、鹿島といった工業地帯に近いタンケン生産拠点の地の利を活かし、お客様に納入した製品の継続的なメンテナンスにも力を入れることで、グループの業績に貢献していきます。

中川 PILLARのグループネットワークを活用し、海外市場に「ABCシール」や「HSシール」といったソリューション力のある製品をアピールしていきたいと考えています。縁の下の力持ちでありながらも、世界中のお客様からの期待に応えられるオンリーワン企業を目指しつつ、その結果として業界ナンバーワンをともに目指していきます。

星川 PILLARの主力製品は石油精製・石油化学向けが多くありました。次の100年に向けた経営を考え、カーボンニュートラル社会に貢献できる製品群を生み出していききたいと考えています。お互いの強みを活かし、補い合いながら、ぜひ一緒に挑戦し成長していきましょう。

